



会より さくら だより

*さくら会のマーク

重なりあう花びらは、人と人が互いに尊重し、理解を深め合う利用者とさくら会とのより良い関係づくりを象徴しています。

第63号 2023年1月発行 社会福祉法人 さくら会

〒140-0013 品川区南大井5-19-1
☎(03)5753-3900(代)・FAX(03)5753-3955
ホームページ: <http://www.sakurakai.jp/>



明けましておめでとうございます

社会福祉法人さくら会

理事長 前田 武昭

旧年中は一方ならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

ご存知のとおり、令和2年から新型コロナウイルスが発生しております。昨年7月から8月にかけての第7波では、重症化する人は少なかったとはいえ、都内の1日の新規感染者が4万人を超えました。さくら会の施設でもクラスターが発生し、多数の利用者・職員が感染しました。こうしたクラスターは品川区、品川区保健所、品川区医師会の皆様のご支援・ご指導により、無事収束させることが出来ました。関係の皆様にご感謝申し上げます。

また、11月のさくら会まつりを始め、多くの集いや行事などを中止せざるを得ませんでした。ご利用者の皆様にも多大なご不便をおかけしました。

昨年末には、第8波の到来が心配され、新規感染者数も増えてきております。安心はできない状況ではございますが、感染対策をしっかりと行い、直接面会の再開などを始めてきております。今後もご利用者と地域の皆様に選ばれた質の高いサービスを追求してまいります。

本年もなにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

地域活動

「子ども110ばんの家」の登録

品川区立大井林町地域密着型多機能ホーム

(大井林町倶楽部)

大井林町倶楽部では地域活動の一環として東大井林町会の見守り安全パトロールや立会小学校のあいさつ運動に参加しています。事業所が立会小学校の通学路に面していることもあり、この度「子ども110ばんの家」に登録しました。



「子ども110ばんの家」

は子どもたちが登下校時に不審者から声かけやつきまといなどの行為を受けて身の危険を感じた時に避難場所として一時的に保護することが役割です。



子どもたちの安全、安心のため警察や立会小学校PTAと連携を図り見守っていきます。なお「子ども110ばんの家」は品川区防犯マスケット「しなぼつ」の表示板が目印です。大井林町倶楽部の玄関前にも「しなぼつ」が見張つてくれています。

地域の皆様に必要とされる事業所を目指し、今後も活動の幅を広げていきたいと思えます。

民生委員学習会

(認知症サポーターステップアップ講座)

南大井第二在宅介護支援センター

10月12日、東大井区民集会所にて民生委員学習会を開催し、36名の民生委員さんが参加しました。感染症対策をしながら、3年ぶりに対面での開催となりました。

テーマは「不安を受け止め、つながろう」コロナ禍の認知症の方の世界に寄り添っていきましょう。

コロナ禍における生活様式の変化(マスク着用、人との交流機会減少など)によって、認知症の方が感じた不安をふまえ、どのように関われば安心していただけるか、寸劇・講義・ワークを通し、理解を深めました。

ワークの中で「相手の方の話をゆっくり聞く」と考えた民生委員さんが多く、認知症の方に寄り添う対応の原点をこの学習会で共有できたと思います。学習会後のアンケートでは「人と人とのつながりが大事」との感想もありました。

今後も民生委員さんと共に、つながり続けられる地域作りを目指していきます。



劇団さくら会による熱演



オレンジリングは認知症サポーターの印です

クリスマスリースづくり

品川区立月見橋在宅サービスセンター

コロナウイルスの影響もあり、以前のように活動する事が難しい時期が続いています。月見橋では昨年7月の行事をきっかけに少しずつ活動の再開を目指し動き始めています。そのひとつとして季節を感じられる小物として、モールを使用したクリスマスリースを作りました。活動を始める声掛けに、女性利用者からは「何、何?できるかしら」男性陣は興味津々ですが、「できないよ」と一言。ところが、作り始めると、どの方も真剣な表情でリングにモールを巻いていかれます。



出来上がると、どの方も満面の笑顔。素敵な瞬間を残すためにインスタントカメラを使い、記念撮影。思い出せる作品と共に持ち帰って頂きました。自信が無いと話される方も、始めると夢中で取り組まれる姿も多く、自分で選ぶこと・やりきった達成感を味わって頂きました。

12月は感染状況により中止となってしまいましたが、ウイルスに負けずこのような作品作りの活動を、少しずつ再開していきたいと考えています。

秋の運動会

南大井在宅サービスセンター
ケアセンター南大井通所リハビリ

デイサービスでは毎年恒例の運動会を10月11日から17日の1週間開催しました。コロナ禍ではありませんでしたが、十分感染対策をとったうえで開催の運びとなりました。

まず、最初に紅白に分かれてエールの交換を行ったあと、玉入れ、棒サッカー、シートサッカーの3種目で白熱した戦いが繰り広げられました。

普段、レクリエーションに参加されない利用者の方も、最初は物怖じしながらの参加でしたが、後半には熱を帯び、玉を我先に投げ入れたりと、棒サッカーでゴールを決めた時には満面の笑顔で目を輝かせていました。



仲間同士の応援や、お互いに助け合ったり、相手チームにエールを送ったりと笑顔溢れる時間となりました。最後に結果発表をして赤組、白組と皆で万歳をして称えあいました。
「コロナを吹き飛ばすほど、大いに盛り上がりました。」

2階フロアでレッツ・

ボーリング

ケアセンター南大井

昨年もさくら会まつりが中止になった為、『秋のボーリング大会』を実施しました。牛の着ぐるみを着た職員主導で準備体操、マツケンマンボを楽し



職員手作りの記念品



しく踊った後、利用者に考えて頂いた『さくら』と『菜の花』チームに分かれ、チーム対抗戦でボーリング大会を始めると、うまく倒れたり倒れなかったりしてみんなが楽しそうにはしゃいでいました。各チームが鈴やタンバリンで応援合戦を繰り広げた結果、41対52で『さくらチーム』が優勝。
最後にはみんなが笑顔と拍手で終わり、職員手作りの記念品も好評でした。

勤続5年表彰式

「日頃の感謝と更なる成長と活躍を願って」

令和4年10月4日、入職5年目の常勤スタッフを対象として、表彰式を行いました。これは、「いつも頑張っているスタッフに感謝の気持ちを伝えたい！」という思いから、さくら未来プロジェクトが企画し実現したものです。



コロナウイルス感染拡大と予防のために延期が続いており、当時は入職5年だったスタッフも6年目、7年目となってしまいました。表彰状と共に記念品のパームクーヘンと先輩や上司から預かったメッセージカードを渡し、日頃の感謝を伝えました。久しぶりに同期と顔を合わせる機会にもなり、最後は笑顔で記念撮影を行いました。



《冬本番、低温やけどに注意》

低温やけどとは、40～50℃に熱に
触れ続ける事で起きる火傷の事です。
50℃だと約3分、60℃だと約1分

で火傷となる可能性があります。自覚症状がないまま
皮膚の奥をじわじわ痛めていくため油断は禁物です。

《予防のポイント》

- ①熱を長時間同じ部位に当てないようにしましょう。
- ②こたつや電気カーペットを使用したまま眠らない。
タイマーをかける等の工夫をしましょう。
- ③湯タンポや電気アンカは、寝る前に布団を温める
為に使い、寝る前は布団から出しましょう。
- ④火傷を見つ
けたら、痛
みがなくな
るまで流水
で冷やし、
放置せず病
院で診察を
受けましょ
う。

特に身体に麻
痺がある・糖尿
病や神経疾患に
より感覚が鈍く
なっている・飲
酒している時や
眠剤を内服して
いる等の人は注
意が必要です。



低温やけどを防ぐポイント

取り出す
湯たんぽ、電気あんか
専用カバーや厚手のタオルで包んでも、足が触れると低温やけどをすることがある。就寝前に布団に入れて温めておき、就寝時は布団から出す。

OFF
電気毛布
就寝前にセットして布団を温めておき、就寝時は電源を切るか、1-2時間で切れるようにタイマーをセットしておく。

NG
使い捨てカイロ
貼るタイプのものは、必ず衣類の上に貼り、同じ部位に長時間あてない。貼ったまま眠らない。貼った部分をサポーターやガードルで圧迫しない。靴下用カイロは、靴を履いているときだけ使用する。

NG
ホットカーペット、こたつ
ホットカーペットの上や、こたつに入ったまま眠らない。

TOKYO働きやすい 福祉の職場宣言

さくら会は令和元年に東京都が公表する働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言する事業所「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言事業所」として宣言しました。3年経過し、また3年更新しました。



働きやすさの取組には人材育成、仕事の評価と処遇、ライフ・ワーク・バランス等があり、都独自の働きやすい福祉の職場ガイドラインを踏まえています。

体的な取組をご紹介しますと、平成29年度から継続している「みんなdeGOMI拾い」があります。入社1～3年目の職員が揃いのスタッフジャンパーで地域のゴミ拾いをします。その後は自己紹介やゲームで交流。企画や当日の案内はさくら未来プロジェクトの先輩職員が担当します。地域への貢献や、先輩や同期との絆を育むこと、効率的な会議の進め方等、この企画を通してできることや得ることが沢山あります。

その他、さくら会の取組は東京都福祉保健局福祉人材情報バンク「ふくむすび」に公開されていますので是非ご覧ください。

……専門職に聞く……

ケアセンター南大井

言語聴覚士 阿竹 綾香

Q1 仕事の内容

言語聴覚士は「話す・聞く・食べる」ことを中心に、皆様がより良い生活を過ごせるよう、リハビリを行っています。

Q2 専門職として心掛けていること

ご利用者のお人柄や、ご自宅や施設での生活環境を考え、一人ひとりに合ったリハビリを提案できるような心がけています。

Q3 ご利用者、読者に向けてメッセージ

身近な人との何気ない会話や、美味しいものを食べることを、いつまでも楽しみながら続けられるよう、微力ながらサポートさせて頂きたいと思えます。

施設生活や在宅生活の中で、何かお困りのことがありましたらどうぞお声かけください。



次回7月号は「介護支援専門員」若穂井秀樹さんの登場です！

さくら会だよりの感想をお聞かせ下さい。

〒4000013 品川区南大井5-19-1
社会福祉法人さくら会 編集委員会 宛

次回の発行予定は、令和5年7月です。